

医療

最前線

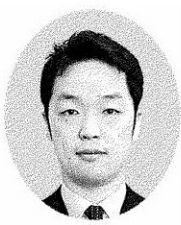
県立中央病院から

(196)

2人に1人ががんになるという時代、がん治療の進歩で予後が延び、「がんの骨転移」が問題になっている。4月1日に県立中央病院整形外科に着任する赤池慶祐医師は、整形外科専門医としては数少ないがん治療認定医。「骨転移に悩む患者が増える中、整形

外科医が積極的に関わり適切な治療を考えていく必要がある」と話す。

赤池医師によると、がんの骨転移は、すべてのがんで起こり得るといい、特に肺がん、乳がん、前立腺がんなどで多く見られる。毎年国内で新たに100万人程度がんに罹患するとされ、そのうち1割の10万人ほどが痛みなどの症



赤池慶祐医師

状を伴う骨転移と診断される。がんの治療が終了後、10年以上経過してから骨転移が判明する人もいるという。骨転移で、がんが血液などの流れによって骨に運ばれ、転移したがんが大きくなるとさまざまな原因で激しい痛みが生じるほか、骨が弱くなっ

て骨折したり、脊髄が圧迫され、日常生活動作の指導や装具療法などが行われる。整形外科では、骨転移の正確な診断を行った上で、こうした治療を総合的にマネジメントしたり、場合によっては弱くなった骨を固定したり、病変部位を切除して人工関節に

入れ替えたりという外科的手術をすることもある。がん患者の「立つ」「歩く」といった運動機能が低下した状態「がんロコモ」を予防することは、「がん治療をスムーズに行い、その後の生活の質を維持し、健康寿命を延ばすことにつながる」と赤池医師。「より良い状態をなるべく長く保つために

がんの骨転移

整形外科医が積極関与

赤池医師は順天堂大順天堂医院

れてまひが起きたりする。

腰や下肢に痛みやしびれを感じ、初めに整形外科を受診する人も少なくない。ただ、骨転移は老化に伴う変形性関節症や脊柱管狭窄症などと見極めが難しいケースもあるという。「整形外科医が骨転

加えて、日常生活動作の指導

や装具療法などが行われる。

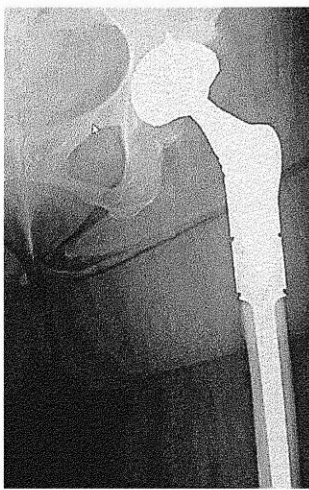
整形外科では、骨転移の正確な診断を行った上で、こうし

た治療を総合的にマネジメントしたり、場合によっては弱

くなった骨を固定したり、病

変部位を切除して人工関節に

します



腎細胞がんが左大腿(だいたい)骨に転移した症例(上、丸で囲った部分)と治療例(いずれも赤池慶祐医師提供)